

「自然との共生」をめざした「環境教育」のあり方

～身近な環境や自然に対して主体的にかかわる子どもの育成～

I 研究テーマにかかわって

自然環境は全ての生き物の生活基盤であるが、人間はこれまで自然を破壊し、あたかも人間だけが特別な存在であるかのように自然に対して大きな負荷を与え、再生不可能ではないかと思われるような開発を行ってきた。その結果、地球は、大気汚染、海洋汚染、オゾン層の破壊、地球温暖化、酸性雨、水質汚濁、食糧問題、人口問題、エネルギー問題、絶滅が危惧される動植物の数々…。実に様々な環境問題を抱えるようになった。また、福島第一原発による放射能汚染は、終わりの見えない最大の環境問題である。

これら問題を解決するためには、私たちの生活と自然とのかかわりにどのような問題があるのかという実態を正しく把握し、その原因を追求することが大切である。また、環境問題を引き起こしている社会経済の仕組みも理解し、環境に配慮した仕組みに変革していく努力も大切である。私たち一人一人が、問題解決のために何をしなくてはならないかを考え、実行していくことが必要とされている。

本部会では、まず、私たちが科学的な知識に裏付けられた環境に対する現状認識を深めるとともに、環境問題を自分の課題としてとらえ、主体的に取り組んでいけるような子どもの育成をめざしていきたい。そのためにも、子どもたちが自然に親しみ、自然の素晴らしさや不思議さに気付くことができるような環境学習の機会を重視して、環境に対する豊かな感受性を育てていきたい。

II 研究内容

1 一人一実践

部会員一人一人が日々実践していることなどを報告し、意見交換をする。

2 学習会

環境教育学習会を行い、環境教育のより深い理解と知識を養う。

III 成果と課題

1 一人一実践

本年度の一実践は、教科に偏りがなく幅の広い実践となった。コロナ禍で例年と違うかたちに余儀なくされたが、実りの多い部会活動が行われた。

国語科では“私たちにできること”と題し、環境問題について意見文を書く実践が報告された。子どもたちの関心は、地球を越えて宇宙にまで広がり、スケー

ルの大きな問題にも自分たちができることを考えて作文されていた。理科では“動植物の生態と環境問題”の分野で、数年間にわたる実践の報告があった。動物に関しては、虫を中心にカイコやスズムシの飼育や鳥の巣作り、植物に関しては木の実や種を收拾して作ったミニミュージアム、アジサイの挿し木やモミジの取り木など実践が報告された。生活科では“野菜作り”と“きれいな花をさかせたい”の単元で報告された。“野菜作り”では、きゅうり、ピーマン、茄子、ミニトマト、ポップコーン、さつまいも、いちご、カブ、ワタと多くの野菜が登場し、中にはプランターを使いベランダ栽培した実践も出された。“きれいな花をさかせたい”では、アサガオの栽培を通して、種、葉、花、つるを活用してアサガオの根以外は全て教育活動に生かした実践が報告された。時数の制限や特活では“教室環境を整える”ということについて、奉仕活動、清掃活動、身の周りの整理整頓、自己肯定感を高める取り組みなど具体的な取り組みや心持ちなどの報告があった。総合的な学習の時間の実践では“グリーンカーテンづくりにチャレンジしよう”“校外学習（船津体内樹形）の見学”“玉宮水神池自然公園を調べよう”の3つが挙げられた。“グリーンカーテンづくりにチャレンジしよう”ではアサガオを栽培して楽しみながら活動を行った。その活動から派生して、環境問題についても調べ学習を行った。“校外学習（船津体内樹形）の見学”では実際に見たり聞いたり、触ったりして体験することの大切さが確認された。“玉宮水神池自然公園を調べよう”は昨年からの継続実践であり、地域との密接なつながりと池の生態系の観察を通して、子どもたちの主体的な取り組みが報告された。生活単元学習では“プレゼントを作ろう”ということで、食品トレーを再利用してそれに新聞紙や色画紙などの実践も、各部員の興味・関心や得意分野を中心に研究テーマにかかわる体験的な活動をメインとした内容であり、自然の素晴らしさや不思議さを、体験を通して気づくことができ、自然を身近に感じることもできた。しかし一方で、継続的な研究が少なく、小・中などの継続的な学びや数年間にわたる環境教育の実施した児童の変容に迫るような実践は少ない。今後の課題となってくるであろう。

2 学習会

今年度は、本部会の指導・助言者の日川小中村雅彦校長先生を講師として『身近なものを使った環境教育活動』と題し、種子散布の理由と方法についてと岩石について学んだ。種子散布について学んだあと、種の模型（アルソミトラ・ラワンいずれも熱帯地方の植物）を作って飛ばす体験や小さく砕いた岩石を好きな種類選んで作る岩石ミニ標本を作った。種子や岩石への興味・関心を引く素晴らしいアイデアをいただいた。特に子どもたちにとって関心の薄い岩石については、身近な素材を生かして作るきれいな標本に、子どもたちの楽しく作って学んでいる顔が浮かぶ貴重なアイデアをいただいた。ぜひ実践して広げていきたいと感じた。

（部長 向山 潤）